

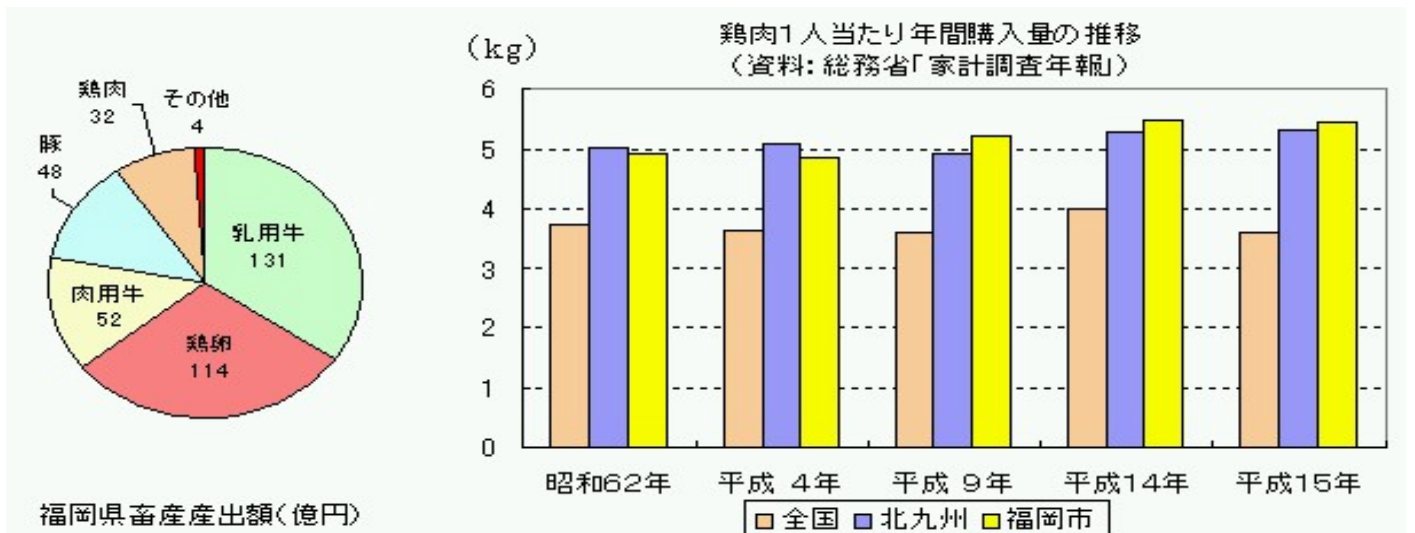
「はかた地どり」の一貫生産体制の確立と安全・安心への  
 取り組みによる産地育成と消費の拡大  
 - 博多の味と食文化を支える -

ノウジクミアイハウジン フクエイクミアイ  
 農事組合法人 福栄組合  
 ダイヒョウリジ アキヨシ カズノリ  
 代表理事 秋吉 和則



1 地域の概況  
 (1) 一般概況

福岡県は九州の北部に位置し、総人口500万人で100万人以上の政令都市福岡市、北九州市を中心に、アジアの玄関口として商業、工業の発展には目をみはるものがある。一方、全国有数の筑後平野を中心に、農業も盛んでアジアへ売り込もう！「福岡ブランド」をキャッチフレーズに高品質な本県産の農産物をアジアに売り込み、「守り」の農業から「攻め」の農業への転換を図っている。本県の平成14年の農業産出額は2,263億円（野菜642億円、米471億円、畜産381億円）で、畜産は産出額で第3位を維持し、うち鶏肉は32億円（畜産全体の8%）を占めている。特に、本県は鶏肉4大料理の1つである「はかた水たき」の本場であり、がめ煮（筑前煮）やタタキなどの鶏肉を使った郷土料理もあることから、福岡市、北九州市での鶏肉購入量は、全国の主要都市の中で近年は1～2位を占めている。



農事組合法人 福栄組合のある北野町は、福岡県の中南部地域に位置し、「焼き鳥日本一のまち」を宣言した久留米市に隣接した人口17千人の町で、九州高速道の鳥栖、久留米、小郡インターに近く、交通の利便性に優れ、少量多品目の野菜生産地づくりで農林水産大臣賞（平成3年）を受賞する等、園芸農業も盛んで、土づくりにも熱心な地域である。

また、本県の鶏肉生産はこの中南部地域で主産地を形成し、肉用鶏飼養農家の4割強を占め、「はかた地どり」の9割はこの地域で生産されている。

## (2) 畜産業が地域社会の中で担っている役割・機能等

福岡には、中洲の屋台や長浜ラーメンあるいは「はかた水たき」、「がめ煮（筑前煮）」や「タタキ」といった鶏肉を使った郷土料理もあり、昔からの食文化が受け継がれている地域である。この昔ながらのコクとうま味があり、これらの郷土料理に適した鶏肉として、福岡県農業総合試験場で開発されたのが「はかた地どり」である。

「はかた地どり」の作出により福岡の食文化を守り支え、郷土の味のよさが継承されるとともに鶏肉の差別化商品として、消費需要の維持・拡大が図られている。

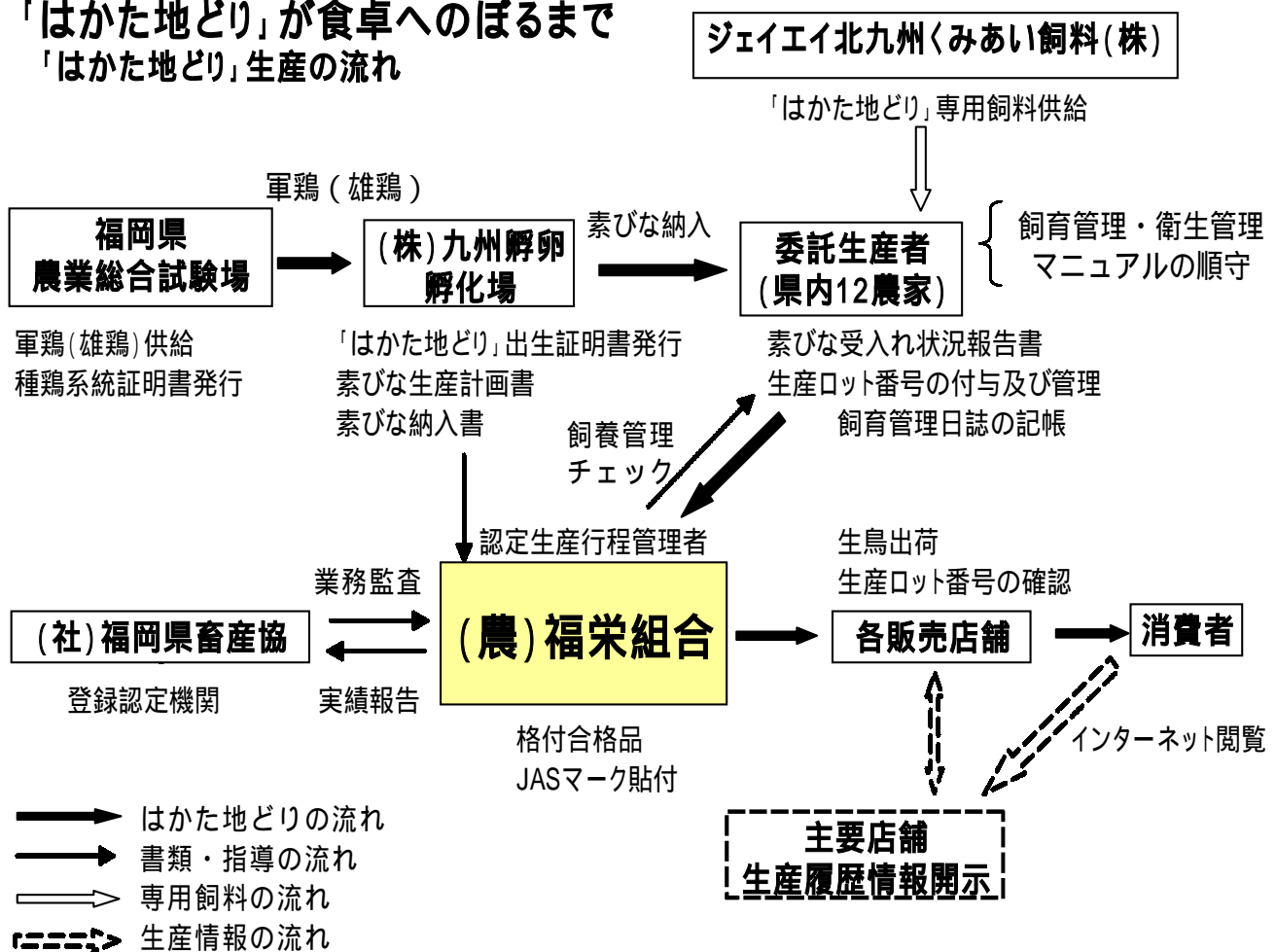
また、品質にこだわり続け、全国に誇れる福岡県産の地鶏肉として、農事組合法人 福栄組合を中心に、生産から販売まで一貫した体制を確立し、さらに消費者のみなさんに安全・安心を確認できるシステムとして、農家自らが地鶏肉特定 JAS の認証や生産履歴情報開示システム（インターネットでもトレーサビリティシステム閲覧可能）に取り組み消費者の信頼を確立し、福岡県産農畜産物のイメージアップに果たした役割は大きい。

特に、このシステムは農畜産物販売の安定拡大に向けた取り組みの1つのモデルとして農家や関係機関から関心を集めている。さらに、生産から販売までの一貫した体制を確立したことにより、肉用鶏飼養羽数は全国的に年々減少傾向が続く中で「はかた地どり」の生産農家数、飼養羽数とも増加し農業後継者も育っており、「はかた地どり」の販売網も北は北海道から南は大分まで拡大している。農事組合法人 福栄組合では「燻製」ギフトセット、酒蒸し、香り焼き等、「はかた地どり」の味のよさを生かしながら新商品の開発と新たな消費者層の開拓に努力され、県内外での「はかた地どり」に対する評価を高め、「はかた地どり」の生産販売拠点としての地位を確立するまでに至っている。

農事組合法人 福栄組合は、生産・食鳥処理、卸販売が主な業務で従業員は 60 名となり、農村地域では雇用業種の少ない中、地域住民に対しては地元の若者や、女性等の雇用の場となっている。

また、新商品開発等で他業種に委託加工や商品提案することで、新たな情報による販路拡大や他産業との連携による地域の活性化や事業展開にも貢献している。

### 「はかた地どり」が食卓へのぼるまで 「はかた地どり」生産の流れ



## 2 当該事例の活動の内容

### (1) 活動の対象

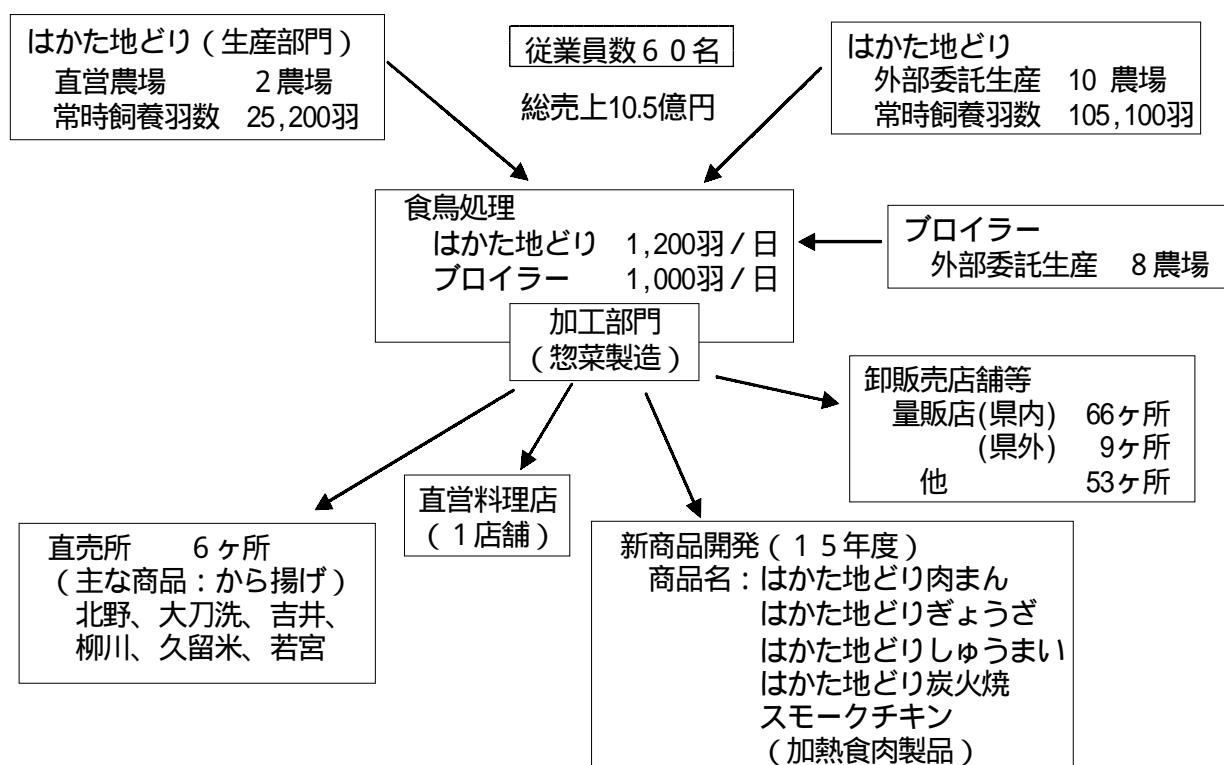
「はかた地どり」という商品の産地づくりと需要の拡大に農家自らが力を合わせて取り組み、一定の消費者層を開拓し食文化の継承と鶏肉の消費拡大に取り組んでいる。

「はかた地どり」は、プロイラーに対する差別化商品であるため、信頼される商品を安定供給するためには、生産・流通体制の体系化を図ることが重要であった。このため、JA 全農ふくれんを中心に、その生産・流通体制が検討された。その中で、JA 全農ふくれんと鶏肉加工・処理・販売等で関係が深かった農事組合法人 福栄組合を中心に、生産から販売を農協系統の肉用鶏農家で、飼養環境や生産技術等が適合する生産農家に絞り、はかた地どり生産者協議会を組織し、生産から販売に至る一貫生産体制として取り組むことになった。

「はかた地どり」の生産・販売体制の中心である農事組合法人 福栄組合の従業員数は 60 名で、事業内容としては、はかた地どりの肉用鶏生産・食鳥処理・加工処理・販売・惣菜製造、から揚げ等の直売所、他に平成 15 年には、「はかた地どり」の料理店を開店し、新しい料理メニューや新商品の開発も始めている。

農事組合法人 福栄組合の経営概要及び生産農家の生産規模は下表の通りである。

#### 農事組合法人 福栄組合の経営概要



#### 平成 15 年度「はかた地どり」生産飼養状況

農家数	飼育方法	鶏舎数	施設収容面積	飼養可能羽数	1戸当り飼養羽数	年間出荷羽数	備考
12戸	平飼い (一部放飼有)	72	13,033.7 m <sup>2</sup>	130,337羽	10,861羽	305,303羽	生産施設は、1市6町に点在

## ( 2 ) 活動実施の目的と背景

- 1 . 昔ながらの歯ごたえもよく、コクとうま味があり福岡に残る「はかた水たき」や「がめ煮（筑前煮）」といった鶏肉を使った郷土料理に適した素材（鶏肉）の生産が消費者から求められていた。
- 2 . この地域や消費者の要望に沿って、福岡県農業総合試験場では福岡県在来軍鶏（しゃも）を主体に、正肉歩留りが優れた白色プリマスロックを交雑して「はかた地どり」が開発された。（昭和 62 年）
- 3 . 「はかた地どり」は消費者ニーズに沿って開発されたが、肉用鶏農家で飼育されているブロイラーと発育・習性・環境適応性が異なることから、新たな飼養基準で飼育管理する必要があった。
- 4 . 「はかた地どり」は、ブロイラーの差別化商品であるため、生産から販売までブロイラーと区分して新たな銘柄商品として生産から販売までの一貫体制を確立する必要があった。
- 5 . 脂肪も少なく、昔ながらのコクと味、肉質の良い高品質肉用鶏は作出されたが、高品質の鶏肉を安定的に確保し、消費者に供給するためには、一定の生産量と消費需要量を確保することが大きな課題であった。さらに、「はかた地どり」の知名度と併せて、いかに「はかた地どり」が高品質の鶏肉であるかを消費者に理解してもらうことも重要であった。
- 6 . 「はかた水たき」や「がめ煮（筑前煮）」といった鶏肉を使った郷土料理は、冬期が主体で季節により需要、不要があり、不要期の新商品の開発による新たな消費者層の開拓と販売の拡大も求められた。
- 7 . ブロイラーと比較すると、飼育日数は 85 日と長く、飼料要求率や鶏舎回転率等も劣ることから、生産技術と併せて商品価値にあった販売単価を確保する必要があった。
- 8 . ブロイラーは、外国産鶏肉と競合し安価で価格変動が大きく、収支の面で不安定であり、ブロイラーと異なる安定した経営体系を確立する必要があった。

このような状況の中での「はかた地どり」の産地育成と地域畜産振興の取り組みに対応するため、JA 全農ふくれんを中心に関係機関で構成する「はかた地どり推進会議」を設立し、「はかた地どり」の銘柄化と普及定着に向けた検討を行った。

（昭和 62 年 5 月）

その結果、ヒナの供給から生産・販売までを指定した生産者や事業所で実施し、生産販売体制の確立を図る。

生産販売価格等は、経営試算に基づく契約単価で実施する等で、農事組合法人 福栄組合を中心に指定肉用鶏生産農家で生産を開始した。

### (3) 具体的な活動内容

#### 1 「はかた地どり」の生産体制確立の取り組み

「はかた地どり」という新たな商品の生産産地を育成するため、関係機関（生産農家、食鳥処理場、孵卵場、飼料メーカー、JA全農、試験場、行政）で構成する「はかた地どり推進会議」を設立し、軍鶏の計画的維持、軍鶏初生ヒナの供給確保、はかた地どり初生ヒナ生産確保等、生産から販売までの安定供給体制を検討し、試験的に3戸の生産農家で4,000羽から生産を開始した。（昭和62年、事務局：JA全農ふくれん）

高品質肉用鶏の生産と品質管理の徹底を図るため、指定孵卵場（1ヶ所）のヒナを指定生産農場（8ヶ所）で肥育し、指定食鳥処理場（1ヶ所）で処理解体する生産・販売一貫生産体制を確立し、生産体制の充実と「はかた地どり」の安定供給に努めた。その結果平成15年度では、「はかた地どり」出荷羽数305千羽を達成している。

福岡県での肉用鶏農家と飼養羽数及び「はかた地どり」の生産推移

(単位：戸、千羽)

区 分		昭和 62年	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成15 / 12年 × 100
福岡県	農家数	137	59	53	52	53	90
	飼養羽数	3,022	1,531	1,532	1,519	1,605	105
はかた 地どり	農家数	3	8	8	9	12	150
	出荷羽数	3.4	131.4	157.9	232.5	305.0	232

(注) 農林水産統計年報 福岡県 畜産課調

はかた地どりの特性にあった飼育管理の徹底を図るため、飼育管理マニュアルや衛生管理マニュアルを推進会議で作成し、生産農家間の生産技術の高位平準化を図った。さらに、農事組合法人 福栄組合が事務局となり「はかた地どり生産者協議会」を設け、勉強会を年4回開催し生産技術の向上を図っている。

鶏ふんの堆肥化等、地域環境も考慮に入れた生産体制に努められ、畜産環境にやさしい生産施設の改善に努めるとともに、鶏ふんは耕種農家との供給契約に基づき、園芸農家等の土づくり資材として活用されている。

「はかた地どり」生産農家の経営安定のため、生産販売価格は年間を通して一定の契約単価での取引とした。

#### 2 「はかた地どり」販路拡大の取り組み

「はかた地どり」肉を素材に、素材の良さを活かした「燻製」ギフトセット、酒蒸し、香り焼き等の新商品も開発し、新たな消費者層の開拓と掘り起こしに努めている。

さらに、商品開発とともに素材の味の良さを消費者に理解していただくために、一流コックによる「はかた地どり」の料理試食会等も開催し、普及浸透を図った。

販売開始当初は、生産計画や販売はJA全農ふくれんと農事組合法人 福栄組合とが連携して販路拡大に努めていたが、平成13年から農事組合法人 福栄組合に販売専門担当者を設け、新商品開発と併せて販売路線の拡大を強化している。

「はかた地どり」の消費拡大、消費者ニーズ把握と新たな商品開発のため、農事組合法人 福栄組合直営の直売所や外食部（料理店）を開設し、「はかた地どり」の広告塔として需要拡大とPRに努めている。

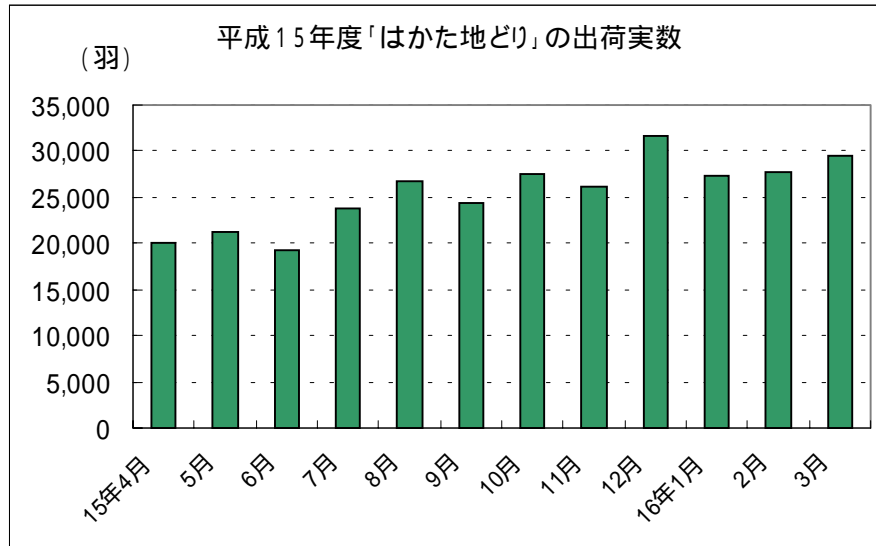
このような販路拡大の取り組みを実施した結果、新商品の開発等による新たな需要拡大により「はかた地どり」の生産販売額や卸・直売売上額とも順調な伸びを示すとともに、平成15年度では周年を通して安定した生産体制が確立した。

「はかた地どり」の生産販売額や卸・直売売上額の推移

(単位：百万円)

区 分	昭和 62年	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成15 / 12年 × 100
生産販売額	2	87	105	157	209	240
卸・直売売上額	4.6	181	217	370	520	287

(注) 福岡県 畜産協会調



3 「はかた地どり」という商品の安全・安心・信頼の取り組み

農事組合法人 福栄組合では、地鳥肉特定JASの認定を受けるとともに認定生産行程管理者や認定格付行程管理者となり、事業所自らが格付けを行うとともにロット管理による生産管理体制を構築し、消費者に自信をもって安全な商品を提供できるシステムを確立した。(平成14年12月10日)

鳥インフルエンザの発生等で鶏肉の消費が落ち込む中、消費者が店頭やインターネットを通して生産履歴を確認できるトレーサビリティシステムの構築に取り組み、店頭にシステムを設置した。この結果、「はかた地どり」の生産者名、飼育方法、出荷日、処理日、飼育日数が瞬時に把握できるようになった。

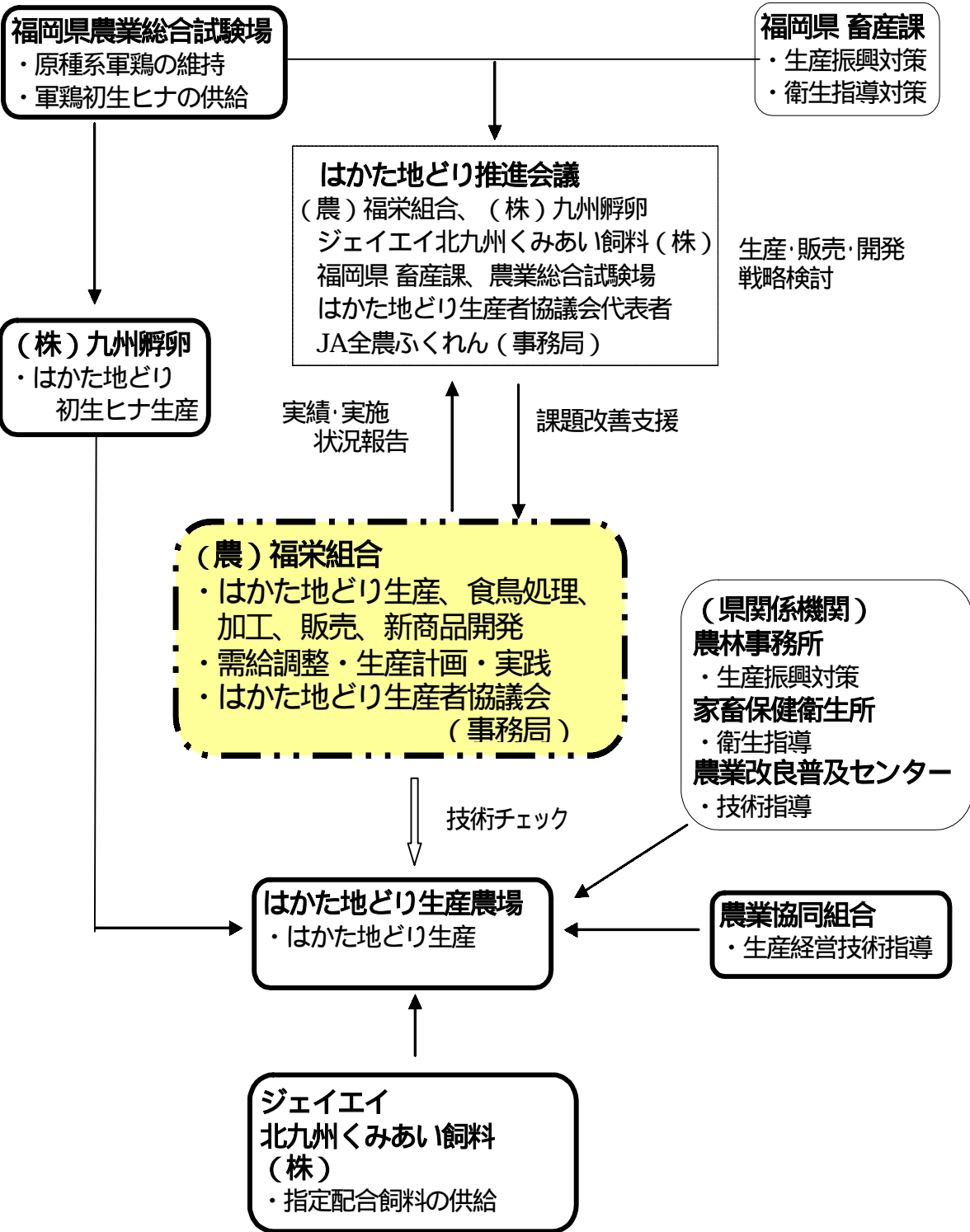
(平成16年4月23日から販売主要3店舗で稼働)



特に農事組合法人 福栄組合は、「はかた地どり」の生産・販売の過程において、生産行程管理者及び格付行程管理者として生産行程の管理と格付の決定責任を担うとともに、販路拡大や新商品開発等の重要な役割を担いながら、消費者の食に対する安全性や高品質地域特産鶏肉の要求に応えるため、生産に取り組んでいる。

( 4 ) 活動の具体的な実施体制

### はかた地どり生産体制



### 3 活動の年次別推移

年次	活動の内容等	成果	課題・問題点等
昭和 43 年	農事組合法人 福栄組合創業 (食鳥生産・加工・販売を開始)	委託農家 3 戸と共にプロイラ ー生産加工開始	
45 年	から揚げ直売開始	処理羽数 50 羽 / 日 事業所と併設 1 ヶ所	
53 年	プロイラ生産直営農場 逐次増築	飼養羽数 5,000 羽	
54 年		飼養羽数 10,000 羽 処理羽数 1,000 羽 / 日 に拡大	
56 年		飼養羽数 20,000 羽 処理羽数 4,000 羽 / 日 に拡大	
59 年	直営農場縮小	飼養羽数 10,000 羽	後継者問題等
62 年	はかた地どり推進会議の設立 「はかた地どり」発表会 (福岡市 12 月 8 日)	飼養羽数 4,000 羽より	県産品奨励品の普及定着に取り 組む
63 年	県産推奨品 「はかた地どり」生産開始 「はかた地どり」加工部門開始	委託農家 8 戸と共に 年間出荷羽数 90,000 羽	初出荷 3,800 羽 / 月 (63 年 3 月開始)
平成 2 年	「はかた地どり」生産体制確立	年間出荷羽数 120,000 羽	販路拡大と全国展開を図る
4 年	惣菜製造販売	処理羽数 8,000 羽 / 日 に拡大	
12 年	「はかた地どり」	年間出荷羽数 131,000 羽	当組合での生産計画・販売強化
13 年	直売所増設	直売所 3 ヶ所開店	全国で 5 番目、九州・山口では 第 1 号
14 年	認定生産行程管理者となり、地鶏肉特 定 JAS 認定 (12 月 10 日)	年間出荷羽数 158,000 羽 年間出荷羽数 233,000 羽	
15 年	外食部開始	外食部 1 店舗 (旨味鳥の郷・とり翔) 委託農家 10 戸に拡大	主要店舗
16 年	「はかた地どり」 生産履歴情報開示システムを店頭 に設置 (4 月 23 日)	年間出荷羽数 305,000 羽 年間出荷羽数 350,000 羽 計画	(福岡, 久留米, 甘木) 鶏肉では全国で 1 番目



## 4 活動の成果・評価

### ～活動成果の内容と波及拡大にあたっての留意点～

#### (活動成果の内容)

本県の農業総合試験場が、福岡県産の地鶏肉として開発した「はかた地どり」は農事組合法人 福栄組合を中心に消費者のニーズに応えながら商品開発や生産技術の高位平準化に努めた結果、全国に数多くある地鶏肉の銘柄の中で、その生産販売量は、全国第7位にまで拡大し、1つの銘柄商品として人々の食文化を支えながら肉用鶏生産の1つの経営形態として定着するまでになった。

これは農事組合法人 福栄組合を中心に関係機関の支援を受けながら、商品の生産から販売まで一貫した体制を確立し、消費者のみなさんに生産者の顔が見える安全・安心を確認できるシステムづくりに取り組み、「はかた地どり」が消費者の健康志向にマッチした脂肪の少ない鶏肉であることが消費者に理解されたことも大きいといえる。さらに農家自らが認定生産行程管理者となり商品に責任を持って生産・格付けを行い、その生産履歴の情報を消費者に開示することで消費者の信頼を確保し、鶏肉の消費拡大に貢献し、「はかた地どり」の需要量の増大とともに新しい専業、複合経営タイプが確立し、経営の安定につながり農業後継者も育ち始めている。

また、生産技術の高位平準化を図るため、飼養管理や衛生管理マニュアルの徹底を図ったことにより、製品(地鶏肉)の均一性が向上し商品に対する信頼性も増し、福岡県では鶏肉の需要をさらに喚起している。

#### (波及拡大にあたっての留意点)

「はかた地どり」という知名度0の商品から消費者に認知される商品までに育成するためには、消費者のニーズに応えながら消費者の信頼を裏切らないイメージづくり、商品づくりや生産体制づくりに留意することが大切である。

## 5 今後の課題

消費者ニーズに応え鶏肉の産地間競争や輸入鶏肉の増大への対応として、プロイラーの差別化商品として開発した「はかた地どり」の商品化に、農事組合法人 福栄組合を中心とした生産・販売への取り組みは、関係機関の支援もあり、当初の出荷目標であった15万羽を達成しただけでなく、新商品の開発等により鶏肉需要の拡大にも貢献し、福岡県産推奨品としての地位を不動のものにしている。

また、「はかた地どり」の生産に取り組む専業農家も育成され、1つの肉用鶏経営形態として定着し、後継者も育成されている。一方、消費者（ユーザー）からは、「はかた地どり」をさらに長期飼育したより高品質のおいしい鶏肉の生産要望もきていることから、新たな消費者ニーズに対応した生産と産地化対策も求められている。

### （2）新たな展開方向

「はかた地どり」は銘柄商品として、全国的に認知された商品になったが、農事組合法人 福栄組合では鶏肉の安定供給による産地拡大と経営の安定を図るため、平成16年12月からインターネットを活用した通信販売や外食部（直営料理店）の充実を図り、「はかた地どり」の新たな商品開発と需要拡大を検討中である。

## 6 活動に対する受益者等の声（評価）

所属・属性 氏名	声（評価）
<p>農事組合法人 福栄組合 代表理事 秋吉 和則</p> <p>JA全農ふくれん 福岡県本部長 永田 訓祥</p>	<p>福岡県畜産物推奨品第1号「はかた地どり」の産地育成と銘柄化に参画させていただき、関係機関のご支援とご指導を受けながら、今日まで関係生産者と一体となって「はかた地どり」の銘柄化と販路拡大に取り組んだ結果、当組合の主要品目の中で取扱高では1位を占めるまでになりました。これも一重に関係機関のご協力・ご支援の賜とと思っています。福栄組合のモットーである“生産及び生産管理から販売まで一貫した管理体制を確立し、高品質にこだわり続けて、消費者の皆さんへ安全・安心をお届けする会社”であることを念頭におきながら、消費者ニーズに応えられるよう企業努力を続けたいと思っております。今後とも福岡県産推奨品にふさわしい商品として、消費者の皆様にお届けしますので、今後とも関係機関のご支援とご指導をお願いします。</p> <p>「はかた地どり」の銘柄と産地化に対しては、本県農家の経営安定と農畜産物の振興を図る観点から、農事組合法人 福栄組合と一緒に進んで参りました。</p> <p>消費者の皆さんから「はかた地どり」の銘柄の価値が認知され、年々生産量及び消費量ともに拡大し、1つの商品として確立された今日の状況にあるとき、生産開始当初の昭和62年に「はかた地どり」発表試食会を盛大に開催したことが思い出されます。</p> <p>「はかた地どり」の生産確立の取り組みは、厳しい商品競争の中で全国的に高い評価を得ています。これも、農事組合法人 福栄組合や関係農家のみなさんが地鶏肉特定 JAS の認定や生産履歴情報開示等に積極的に取り組まれ、消費者に安心して、安全・安心な商品をお届けした結果で、本県の優良事例の1つです。</p> <p>本県畜産の経営類型の1つとしてさらなる産地の拡大を期待しています。</p>

## 7 事例の特徴や活動を示す写真



福岡在来軍鶏（しゃも）の系統維持

〔福岡県農業総合試験場で、維持改良されている

軍鶏の飼育状況・勇姿〕



「はかた地どり」飼育状況・勇姿



「はかた地どり」販売状況



「はかた地どり」生産者の標示シール



「はかた地どり」の生産履歴情報システム  
(誰でも、いつでも検索可能)



いつも盛況の「はかた地どり」試食会



試食展示



博多の味を支える「はかた地どり」の生産者